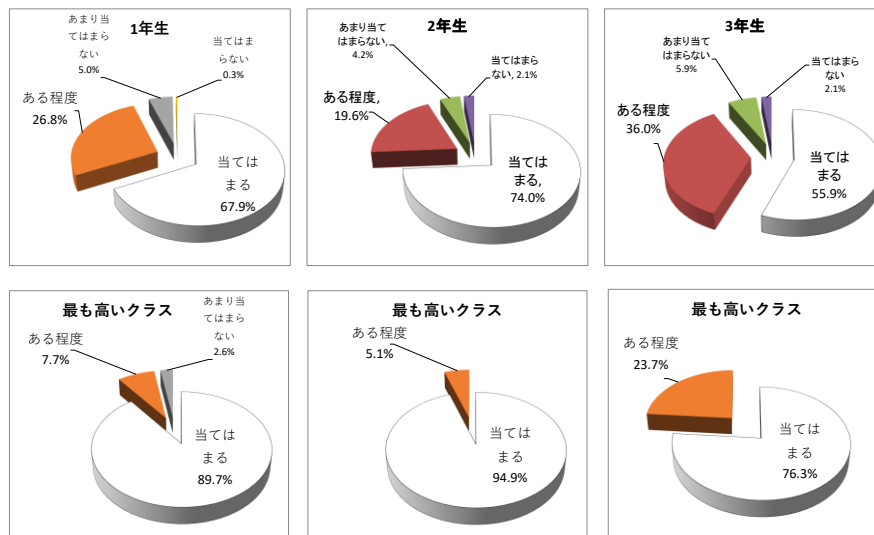


令和6年度第1回ホームルーム活動に関する調査 令和6年7月実施

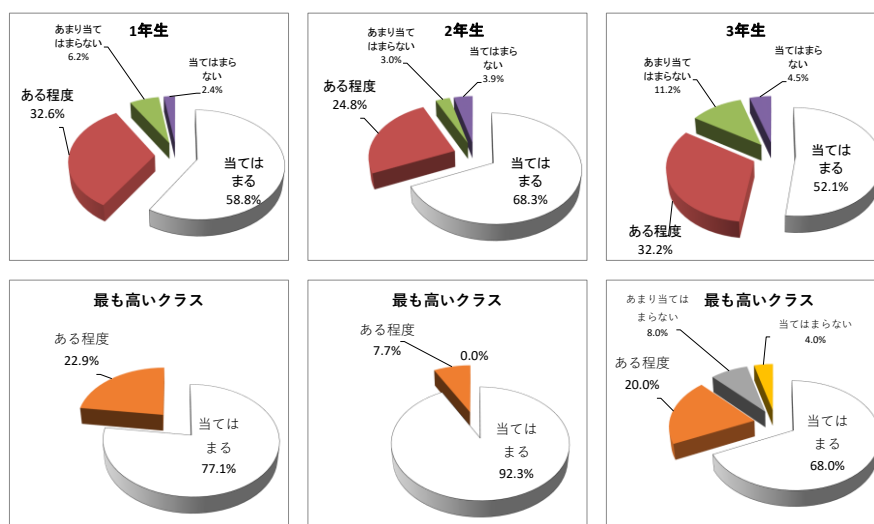
質問1 ホームルーム活動は、計画的に行われていますか。



ホームルーム活動は、年間指導計画に基づいて、意図的・計画的に実施するものですので、クラスによる差が生じることは望ましくありません。担任の先生方が、常に情報共有を行うことが求められます。

本調査を開始以来、しかし、クラスによる差は年々小さくなってきています。学年全員の生徒を、8人、9人の担任が全員で指導する体制を維持し、良い取組は学年全体で共有することが重要です。

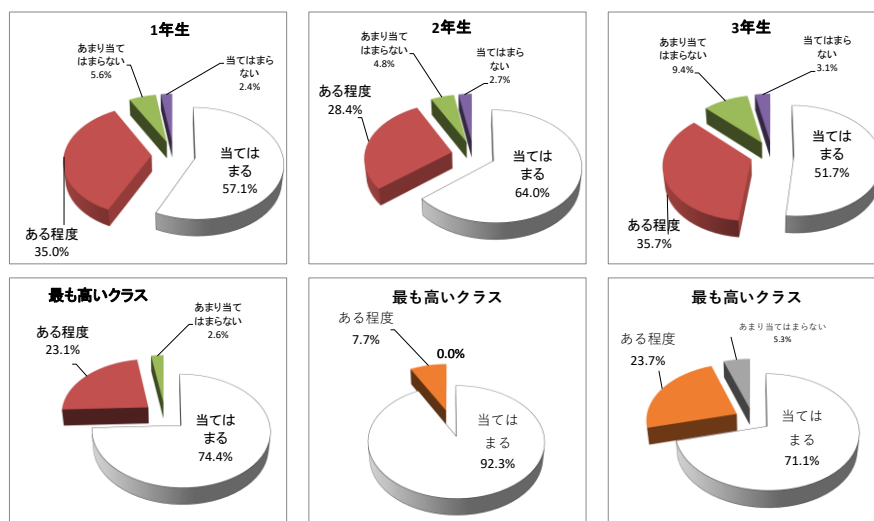
質問2 ホームルーム活動では、話し合いや発表活動など、生徒中心の活動は行われていますか。



話し合いや発表の活動は、生徒の自主性を涵養し、社会性を培うだけでなく、将来の進路について考え、自ら道を切り拓いていく志を立てるために重要な役割を果たしています。

進学校の3年生は「はい」が30%前後が一般的ですが、77期生は非常に高い水準を示しています。1、2年生は、クラスによるばらつきが見られます。

質問3 ホームルーム活動で、先生は皆さんの学習や進路に関する期待を表明していますか。



生徒に対して、学習や進路に関する期待を明確に示すことは、生徒の進路実現に重大な役割を果たしています。担任の先生はもちろん、すべての教科担当の先生に、生徒に対する期待を、HR活動や授業において、毎回、明確に示すよう、学校経営計画に位置付けています。

2、3年生は、クラスによるばらつきがあります。学年での情報の共有を促す必要があります。

少数第2位を四捨五入処理しているため、各項目の合計が100%とならない場合があります。